

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ア-1
------	-------	-------	-----

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	協働推進課
具体的な施策	① 体験ツアー等を活かした観光、交流の促進		
推進施策	ア 観光振興 ■ 広域観光の充実		
交付金事業名	—		
事業概要	<p>【岡山型ムスリムツーリズム推進事業】</p> <p>岡山市、真庭市、吉備中央町による広域観光事業で、ハラル対応を中心に整備してきた岡山独自のムスリム観光客向け受入体制をベースとして、効果的な観光プロモーションを実施するとともに、受入体制の更なる磨き上げにより、マレーシア・インドネシアなどのムスリムを対象とした誘客を図る。</p> <p>取組7年目（自走化2年目）：岡山連携中枢都市圏取組事業（2市1町）</p> <p>※地方創生交付金の交付対象期間は令和2年度で終了しており、令和3年度から自走化している。</p> <p>事業費：11,813,000円のうち、吉備中央町分 165,000円</p>		
事業実績・結果	<p>岡山型ヘルスツーリズム連携協議会に参加し、2市1町による広域観光事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムスリム受入体制の構築（ムスリム対応セミナー、ピーチマーク認証取得支援、岡山ムスリムツアーガイドブック制作、PR動画の制作、ムスリムサイトの管理運営等） ・マレーシア、インドネシア誘客促進（オンラインでの旅行会社へのPR活動、ファミツアーの実施） 		
課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金交付期間の5年間で終了して、自走化（令和3年度から令和7年度の5カ年計画）3年目に向けて、引き続きツアー・広告収入での十分な自主財源確保をしていく必要がある。 ・また、現在新型コロナウイルス感染症の影響で、インバウンドの受入が難しい状況であったが、5類に移行されたため、少しずつは、受け入れも増加すると思われるので、マレーシアやインドネシア国内の知名度向上に繋がるPRやピーチマーク取得店舗の増加及び認知度の向上を図る必要がある。 		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
広域観光ルートの開発	0	15	5年間累計	1	2	2		

○地方創生推進交付金による重要業績評価指標（KPI）※H28～R2年度

指標	基準値 (H31)	目標値 (R7)	考え方	実績 (R4年度末累計)
①ムスリム観光客の連携自治体における宿泊者数（2市1町）	1,812	4,059	5年間累計	513人 ※令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な減となった（R3年度283人）。
②連携自治体における観光入込客数（2市1町）	11,493,000	15,307,000	5年間累計	R1末 11,106,000人 R2末 5,635,000人 R3末 4,748,000人 R4末 8,022,000人
③連携自治体におけるハラル認証及び岡山おもてなし対応基準を満たした店舗・施設（2市1町）	5	71	5年間累計	62店舗（町内は4店舗）

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	2	現状 維持	9	内容 変更	3	事業 縮小	1	廃止	0
<p>体験ツアー等を活かした観光交流の促進は事業として進める必要と思いますが、ムスリム観光客受入体制については町の積極姿勢が感じられない。ハラル対応のための岡山市、真庭市との連携も効果を含め見直しが必要と思える。特に対応する事業者・施設などにその姿勢を感じない。広域観光は必要と思えるので我が町の観光資源と広域における観光資源の連携を考えて近隣市町村との連携を考える必要があるのではと思う。空港からの実証実験にともなって企画を（一社）の観光協会が出発しているので強固に連携して内容を進めてもらいたい。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>ムスリムの方は、農家民宿にて受入を行っており、農家民宿では、岡山県独自のムスリム対応の証「ピーチマーク」をとっている民宿が3か所あります。このピーチマーク対応の施設も増やしていきたいと思えます。また、近隣の市町との連携により観光資源の広域連携も実施する上でも、空港からの実証実験も実施しております。今後更に、観光協会と連携を密にし、観光事業に取り組んでいきたいと思えます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ア-2
------	-------	-------	-----

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	協働推進課
具体的な施策	② 町の魅力づくり		
推進施策	ア 町の魅力づくりの推進 ■メンタルヘルスタウン構想の実現		
交付金事業名	-		
事業概要	<p>「癒し」をテーマに、観光資源を見直し、都会では味わえないような自然・農産物・体験農園・温泉などを調和させた観光地域づくりを図る。 ※セラピーリゾートタウン推進事業からの継続事業 ※日本版DMOによる「癒し」の理想郷（ふるさと）推進事業は、R1年度で終了</p>		
事業実績・結果	<p>・メンタルヘルスタウン構想の実現に向けて、町内にある地域資源を活用し、「癒し」をテーマとした滞在型の観光につなげていくことで本町の魅力を高め、関係人口の創出や拡大を図る取組を行った。 ・日本版DMOによる「癒し」の理想郷（ふるさと）推進事業は、R1年度で終了している。</p> <p>・令和4年度は、7月に一般社団法人吉備中央町観光協会が設立し、観光情報の一元化や観光情報の発信等を実施している。 ・観光のホームページを新規作成/合同販売促進キャンペーンの実施/観光資源体験ツアーの実施/100年フード申請・認定 ・行政の枠を抜け出し、より自由な発想のもと、新しい事業を考案し協会自ら活動していく団体として事業を実施している。 ・観光協会HP閲覧者数：R4年度48,079人/年間</p>		
課題・問題点等	<p>町の観光施策の中心的な役割を担う団体となる一般社団法人吉備中央町観光協会が設立し、本格的に観光事業の施策の展開を実施する。 地域資源を活用した観光メニュー開発やプロモーション活動を実施し、吉備中央町の交流人口を増加するようPRを行っていく。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
「癒し」をテーマにした観光モデルルートPRパンフレットの開発	R3までに完了	-	作製	配布	-		

○地方創生推進交付金による重要業績評価指標（KPI）※R1～R3年度

指標	基準値 (R1)	目標値 (R3)	考え方	実績 (R1・R2・R3年度)
①DMO候補法人が実施した観光ツアー等の年間入込客数	0	1,200	3年間 累計	R1目標値 250人→実績値 184人 R2目標値 400人→実績値 156人 R3目標値 1,200人→実績値 0人 ※R2は新型コロナウイルス感染症の影響による。R3はDMO候補法人が活動休止による。
②町内主要観光地入込客数	509,000	519,000	3年間 累計	R1目標値512,000人→実績値532,350人 R2目標値515,000人→実績値376,611人 R3目標値519,000人→実績値379,887人 ※R2、R3は新型コロナウイルス感染症の影響による。
③体験型宿泊（教育旅行、農家民宿宿泊）者数	170	620	3年間 累計	R1目標値 270人→実績値 340人 R2目標値 420人→実績値 15人 R3目標値 620人→実績値 204人 ※R2、R3は新型コロナウイルス感染症の影響による。
④DMO候補法人が実施した観光ツアー等へのインバウンド年間入込客数	0	200	3年間 累計	R1目標値 50人→実績値 13人 R2目標値 65人→実績値 0人 R3目標値 200人→実績値 0人 ※R2は新型コロナウイルス感染症の影響による。R3はDMO候補法人が活動休止による。

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	3	現状 維持	10	内容 変更	1	事業 縮小	1	廃止	0
<p>・町の魅力づくりは進めるべきであるが、日本版DMOとしての組織は機能させることが出来なかったのだからそれに代わる観光協会としてサポート体制を進め、活動領域・事業内容の拡充を図り変化する環境にいち早く対応できるよう対策し、町の魅力め資源をもっともっと認識して愛着を持った展開を進める。</p> <p>・蒜山、軽井沢、ニセコなどと比べると「癒し」の町のイメージが貧弱。温泉か森林浴か、のんびり自然体験か、メインとなる「癒し」のイメージ発信と受け入れ施設の整備が必要。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・今後は、観光協会と連携しながら、観光の受入態勢整備を進めております。町の観光資源の発掘等も視野に入れながら、事業展開を進めて参りたいと考えます。</p> <p>・資源豊富なまちに比べると、「癒し」のイメージが弱いと感じておりますが、吉備中央町ならではの小さな町だからこそその観光や体験商品のPRに努めてまいりたいと思います。現在の観光資源の発掘を行ってまいりたいと思います。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ア-3
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	定住促進課
具体的な施策	① 稼ぐ地域の創出と就労の確保		
推進施策	ア 企業の立地と投資の促進 ■持続的なイノベーション創出を実現するまちづくり		
交付金事業名	持続的なイノベーション創出を実現するまちづくり事業		

事業概要	世界中から企業、研究機関、大学、起業家、フリーランスなどを集めて、異業種、異分野が持つ技術やアイデア、サービス、ノウハウ、データ、知識などを組み合わせ、様々な分野の新規事業を量産する「国際的なオープンイノベーションセンター」を設立し、吉備高原都市を中心として国内外から企業や人を呼び込むことができる魅力的なまちづくりに取り組み、新たな分野の就業の場を確保することで地域の活力を生み出す担い手となる若者の転出の抑制と転入者の増加を促進する。 令和3年度をもって地方創生推進交付事業を完了、民間企業により自走している。
------	--

事業実績・結果	自走を開始した国際オープンイノベーションセンターの運営企業により、新たな企業の受け入れや参加者獲得に向けたイベントが実施された。 また、イノベーションヒルズ構想や新規スタートアップ企業の支援を行う、一般社団法人吉備高原オープンイノベーション協会により、スタートアップ支援イベントや啓発イベントを通じた起業家支援が行われた。
---------	--

課題・問題点等	国際オープンイノベーションセンターの認知度向上及び、吉備高原オープンイノベーション協会に参加している起業家の吉備中央町への誘致
---------	---

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
設定なし	—	—	—	—	—	—	—

○地方創生推進交付金による重要業績評価指標（KPI）※R1～R3年度

指標	基準値 (R1)	目標値 (R3)	考え方	実績 (R3年度末)
①新規プロジェクト事業数	0	30	3年間累計	目標値 30個 → 実績値 35個
②事業を通じた新規雇用者数	0	15	3年間累計	目標値 15人 → 実績値 20人
③オープンイノベーション関連イベント開催による参加者数	0	155	3年間累計	目標値 155人 → 実績値 2,956人

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	3	現状維持	6	内容変更	4	事業縮小	1	廃止	1
<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション創出の基本的方向は理解できるが、具体的内容に於いて町民が共に取組を進めているとは考えにくい。基本目標にある町を支える（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込むためには、現状のイノベーションセンターの状況だけの取組では目標に至るとは考えにくい。地元企業・事業所との共同・連携などにより就労対策及び事業持続化対策の上にイノベーション創出を進める必要があるのではと思う。 ・リモートワークが浸透している。町でリモートワークができる建物が実行段階になっている。しっかりとPRしていただきたい。 ・吉備高原OI協会事業主の誘致を図るには候補地の確保、取得の促進が必要。 ・実効が目に見えないIH社については退去していただく決断が必要。吉備高原OI協会に特化すべき。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の通り基本目標の達成には、地元企業・事業所の就労・事業持続をはじめとした活性化が必須となります。国際オープンイノベーションセンターの活動も目標達成のための一部分となりますが、現状では目標に貢献する十分な成果が得られていないため、今後も状況のヒアリングを継続していきます。 ・国際オープンイノベーションセンターでは運営企業により通信環境も整備され、リモートワークに適した環境が整備されていることから、町としても移転希望の企業があった場合には積極的にPRしていきたいと考えています。また、吉備高原オープンイノベーション協会に限定せず、新たな産業団地の造成に向けた検討を進めていきます。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イー1
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	定住促進課
具体的な施策	② 移住・定住への受け入れ		
推進施策	ア 移住・定住の促進 ■移住・定住の促進制度 ■結婚祝い金の支給		
事業概要	若者や子育て世帯等が次世代の担い手として定住しやすい助成制度を進め、吉備高原都市を中心とした地域の活性化を図っていく。		
事業実績・結果	移住・定住を促進する助成制度（住みたいまち定住奨励金）により、U・Iターン希望者を誘導した。 【奨励金等交付実績】 合計 17,841,000円 ○住宅を新築した場合の奨励金 20件 14,850,000円 ・公共分譲地（吉備高原都市・ハートフルウ）へ住宅を新築した場合、基本額70万円/戸 ・子育て世帯又は婚姻後10年以内の夫婦が分譲地に住宅を新築した場合、基本額に20万円を加算 ・子育て世帯又は婚姻後10年以内の夫婦が分譲地以外へ住宅を新築した場合、基本額50万円/戸 ○民間賃貸住宅へ入居した場合の奨励金（最長24か月） 4件 591,000円 ・民間賃貸住宅へ入居した場合、家賃3か月分の金額を補助（上限24万円） ○若者への就業奨励金（5万円/人） 12件 600,000円 ○UIターン者への奨励金 25件 1,450,000円 ・UIターン者への奨励金 3万円/人、同居人5万円/人（中学生以下3万円/人追加） ○結婚祝金（5万円/組） 7件 350,000円		
課題・問題点等	・地震などの自然災害に強いことが周知され始めたことから、吉備高原都市住区に分譲が進みつつあるが、完売を目指して更に関係機関と協力してPR等を進めていく必要がある。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
設定なし	—	—	—	—	—	—	—	—

○地方創生先行型交付金からの事業により設定した重要業績評価指標（KPI）

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
移住・定住者世帯数	51世帯	50世帯	年間	40世帯	49世帯	55世帯		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	7	現状維持	8	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<p>・昨今の分譲地の購入数、また、新築の建築数の様を見ると、本事業の成功を感じます。引き続きPRをお願いします。移住・定住者からヒアリングを行い、メリットを移住・定住を検討されている方に見せられないかと考えます。ただ、ご年配の方の移住も少なくないと感じますので、次事業と合わせた活動をぜひ継続していただきたいと思えます。</p> <p>・多くの分譲地が残っているものの、少しずつ住宅は増えており、そのため急激な地域の高齢化が進むことなく、幅広い世代が暮らす住区となった。狙った結果ではないが、これは子育てや高齢者福祉にとって非常によいことだと思え、当町の魅力ともいえる。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・現行の住みたいまち定住促進制度は令和6年度をもって一旦終了し、令和7年度から新たな促進制度を開始することとなります。現在は新制度に向けた検討段階で、現在効果をあげている制度は引き継いでいく予定ですが、ご指摘の点なども含めて今後総合的な見直しを進めていきます。</p> <p>・子育て世代をはじめとした幅広い世代が住んでいることは、町の大きな魅力になっていると考えています。移住者にとっては同世代がいることは大きな移住検討材料になることから、移住相談の際などにもPRしていきます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イ-2
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	定住促進課
具体的な施策	② 移住・定住への受け入れ		
推進施策	ア 移住・定住の促進 ■空き家活用の推進		
事業概要	移住者の住居や二地域居住の拠点用途などとして幅広く空き家を活用していくため、空き家バンクの整備と登録を促進するとともに、情報提供を行っていく。		
事業実績・結果	<p>移住・定住の促進の受け皿として、空き家バンク制度のPR、活用促進を行った。</p> <p>○空き家バンク制度PRのため、固定資産税納税通知書への空き家情報の掲載。</p> <p>○空き家リフォーム事業補助金 5件 1,794,000円 空き家利用者又は所有者が当該空き家のリフォームを行う場合、経費総額に3/10を乗じた額を補助する制度（限度額50万円）</p> <p>○空き家片付け事業補助金 8件 1,201,000円 空き家所有者が空き家バンク登録物件の片付けを行う場合、経費総額に1/2を乗じた額を補助する制度（限度額20万円）</p> <p>○吉備高原都市住区空き家活用奨励金 1件 300,000円 吉備高原都市内の空き家の売買契約を締結した場合、所有者に30万円の奨励金を交付</p>		
課題・問題点等	<p>・過疎化の進行により、空き家の数が増加しており、登録相談が多くなっているが、空き家の状態で管理されていない時間が長く、家屋の老朽化が進行しているケースや相続や家族の同意などの問題により、登録の準備が整っていないケースも見受けられる。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
二地域居住や事業用として活用する空き家の数	0	5	5年間累計	1	1	0		
空き家バンクの年間登録数 27件/年	20	27	年間	20	21	23		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	9	現状維持	6	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<p>・空き家情報の収集にとどまっており、空き家発掘は民間頼みになっている。地域に出向き、情報を集め、空き家の家主と交渉し発掘してほしい。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・空き家の発掘に関しては、町でも所有者や知り合いへの呼びかけなど行っているものの、所有者が処分を考えていなかったり、売却に係る手続きの多さから、なかなか町での空き家発掘に関し成果が出せていない状況です。この対策として、民間事業者との情報交換や空き家バンクへの掲載にかかる手間の簡素化を図ることで、民間での発掘の活性化を図っており、現在は民間事業者からの空き家情報提供も増加しつつある段階です。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イ-3
------	-------	-------	-----

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	協働推進課
具体的な施策	① 体験ツアー等を活かした観光、交流の促進		
推進施策	ア 観光振興 ■農家民宿の支援 イ 交流促進 ■農業体験の促進		
事業概要	<p>【農家民宿の支援】 農家民宿事業の継続性を確保することで本町と関わる人々を増やすとともに、豊かな自然や農家民宿でのホスピタリティ体験を企業等で増加傾向にあるメンタル休職者の職場復帰への準備として活用するプログラムに活かし、本町と関わる人々の増加を促進する。</p> <p>【農業体験の促進】 年間を通して行う農業体験ツアーやイベントを提供し、継続的に本町と関わる機会や場所をつくることによって、交流人口の拡大を図る。</p>		
事業実績・結果	<p>農家のありのままの生活や農業・自然体験等を提供する「農家民宿」について、平成27年度交付金事業で開業した8戸（現在13戸）で組織する協議会を通じて活動の支援や新たな開業者への支援を行った。</p> <p>【農家民宿推進協議会への支援】〈補助金額200,000円〉</p> <p>○協議会の主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然やあたたかい人との交流を通じて、伝統的な農村文化体験ができる施設として、近年の教育旅行のニーズに合う体験内容（農業体験・生活体験など）でPRを実施した。 ・香川県において民宿を始めたい方への講演会を行い町の農家民宿の魅力発信を行った。 ・テレビ取材（備前県民局より依頼：OHK番組「わがまま！気まま！旅気分」の取材受入） ・教育旅行受入2件（うち海外教育旅行1件） <ul style="list-style-type: none"> 大阪十三中学校（168名の受入 田植え体験 日帰り） 台湾高級中学校（高校生15名＋引率教師2名受入 餅つき体験・手巻き寿司作り体験 民宿4軒対応） ・台湾高級中学校の先生方の視察受入（5名 民宿2軒対応） ・令和4年度農家民宿宿泊者数 240人 		

課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部の教育旅行を受け入れるために、新規開業者を増やし必要なキャパシティの確保が求められている。(現在95名→150名) ・岡山空港や岡山駅から町内へのアクセスが不便なため、個人旅行者の宿泊が困難。個人旅行者の確保には、じゃらん・楽天トラベルなどへの対応も不可欠と考える。 ・受付をする上では、各農家のスケジュールを毎日把握し、インターネットでリリースすることにより、利用者の利便性は上がると思うが、現在のところ、利用者の要望も様々であるため、受付するためには、要望をお聞きしお応えできる民宿を紹介するといった形式で受付を行っているため、簡単に受付システム等で受付を実施することが難しい。しかし、今後は、受付システムを構築できるよう検討して参りたいと思う。 ・現協議会構成員の中でも高齢化により、経営が困難になりつつある農家民宿が出てきているので、受入できなくなった農家民宿の継承も課題となっている。また、新規農家民宿開業希望者もあり、準備を進めている。 ・新型コロナウイルス感染症も5類に移行されたことにより、少しずつ観光も戻ってくると思われるため、教育旅行やインバウンドの受け入れについてPRをしていく必要がある。
---------	--

○重要業績評価指標 (KPI) の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
農家民宿受入人数 300人/年	340	300	年間	114	194	240		
農業体験を含む団体旅行の受入件数 15件/年	8	15	年間	5	2	2		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	6	現状維持	9	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家民宿はとても頑張って町のイメージアップに貢献しているが、各民宿の高齢化が進んでいる。拡大のためにはサポートが必要。 ・ 町のWebを見ると農家民宿の受付は一元管理(事務局)になっているが、直接受付もしてはどうか。各事業主の魅力をSNS等で発信しては。 ・ 農家人口を増やすためにも、もっと大々的でわかりやすいPR促進をお願いします。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家民宿経営者の高齢化の問題もありますが、現在、数件の農家民宿経営希望者もあり、民宿の件数増加が見込まれます。開設したい方へは、県農村振興課と共に訪問し説明など丁寧に行っております。 ・ 農家民宿の受付業務については、当初から町で請け負って実施するスタイルとしている。町が受けることで、安心して民宿の方も受入ができることもあり、現在は事務局受付としています。農家民宿のSNS発信も観光協会の協力を得ながら発信していけるよう検討してまいります。 ・ 農家民宿事業をわかりやすく、広く周知する方法を検討してまいります。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イー4
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	子育て推進課									
具体的な施策	② 妊娠・出産を支援する											
推進施策	イ 町を挙げての子育て支援 ■子育て世帯応援金											
事業概要	子育て世帯を応援するため、第1子のお産から応援金を支給する。 (令和2年度から第1子からの支給に制度改正)											
事業実績・結果	<p>町内に居住し、住民登録をしている方で、お産後も新生児とともに引き続き10年以上本町に定住する意思をお持ちの方に対して支給する。第1子から支給することで、吉備中央町でお産・子育てをしていただけるよう、他の制度もあわせてPRを実施し、子育て世帯の定住を促進する。</p> <p><子育て世帯応援金等支給額 11,400,000円></p> <p><令和4年度実績> 子育て世帯応援金</p> <table border="1"> <tr> <td>第1子(お産時)(30万円)</td> <td>10名</td> <td>3,000,000円</td> </tr> <tr> <td>第2子以降(30万円)</td> <td>28名</td> <td>8,400,000円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>38名</td> <td>11,400,000円</td> </tr> </table>			第1子(お産時)(30万円)	10名	3,000,000円	第2子以降(30万円)	28名	8,400,000円	合計	38名	11,400,000円
第1子(お産時)(30万円)	10名	3,000,000円										
第2子以降(30万円)	28名	8,400,000円										
合計	38名	11,400,000円										
課題・問題点等	第1子から支給を行うことで、吉備中央町でお産いただけるよう、他の制度も併せてPRを実施し、子育て世帯の定住促進に繋げる必要がある。											

○重要業績評価指標 (KPI) の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
応援金(第1子)の支給件数 0人/年→40人/年	0	40	年間	7	13	10		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	4	現状維持	11	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<p>・ 応援金受給者として、応援金の支給は非常に助かりました。その他どのような制度があるかなども含め、引き継ぎPRをお願いします。</p> <p>・ 近年10歳以下の子どもさんのいる移住者が増えている。子ども転入応援金の制度を追加してはどうか。</p> <p>・ 吉備中央町でお産できる病院(吉備高原医療リハビリテーションセンターに産婦人科を設ける等)検討をお願いします。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・ ママフレへの制度掲載や町公式Instagram、ラインと連携し、更に広くPRしていきます。</p> <p>・ ご提案の応援金は子育て施策と定住促進施策双方の性質があるため、横断的に検討します。</p> <p>・ 費用面や医師・医療スタッフの確保など、産婦人科の設置には課題があるかと思えます。令和5年10月、町内に初の助産院が開設されました。今後、産後ケアの委託契約の締結を進めるなど、連携に努めたいと思えます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イ-5
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	子育て推進課
具体的な施策	③ 子育てを支援する		
推進施策	ア 子育てしやすい町づくりの情報発信 ■子育て支援情報発信		
事業概要	子育て中の保護者のニーズに合わせた、役立ち情報や身近な情報の掲載などにより、子育て情報サイト（ママフレ）の利便性を高め利用促進を図る。		
事業実績・結果	子育て応援サイト「吉備中央町ママフレ」を開設し、子育てに関する行政情報やイベント内容など、様々な子育て情報を町公式ホームページやWEBサイト、スマートフォンアプリで提供する。 事業費 1,914,000円（ホームページ運用管理委託料） 令和4年度アクセス状況 年間アクセス数 15,414件 ユーザー数 3,063人 月平均アクセス数 1,285件 ユーザー数 255人		
課題・問題点等	定期的・計画的に記事を更新するよう関係課と連携を図り、乳児健診やイベント等で町内外への継続的なPR活動を行うことが必要である。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
吉備中央町ママフレサイトアクセス数 2,000件/月	813	2,000	月間	966	808	1,285		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	2	現状維持	13	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
・町のホームページと統一を図り、別サイトでの運用と、アプリを廃止することでランニングコスト削減できるのではないのでしょうか。月のアクセス数からも今後の増加を考えても100件/日を下回ると思いますので、LINEでの行政情報の発信も行っておられると思いますので、子育て支援情報で複数サービスを使用した同一情報の提供であれば、メリット試算し、検討されてはいかがでしょうか。											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
・子育て世代の忙しい親にとって、ネットにある膨大な情報量の中から、自分が欲しい情報を探し出す時間を捻出することは困難に思われます。その点、ママフレは子育てに関する情報をまとめたアプリなので、情報収集が容易になると考えられます。また、子どもの情報を設定することにより、年齢にあった子育て記事（全国版）を見ることができ、子育て世代に有益な情報を届けるという観点では、運営する価値があると考えます。											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	イ-6、7
------	-------	-------	-------

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	保健課
具体的な施策	② 妊娠・出産を支援する		
推進施策	<p>ア 妊産婦・乳児への子育ての応援</p> <p>■産前・産後子育て支援</p> <p>イ 町を挙げての子育て応援</p> <p>■子育て家庭への精神的、身体的、経済的応援</p>		
事業概要	<p>【産前・産後子育て応援事業】</p> <p>子育て世代包括支援センターを中心とした妊娠・出産・子育てに対して切れ目のないサポート体制整備を推進する。また、担当保健師による子育て支援プランの作成など、産前・産後のサポートやケアなど応援体制の強化を図る。</p> <p>【子育て家庭への精神的、身体的、経済的応援】</p> <p>新生児が誕生した家庭を保健師等が訪問し、精神的、身体的な応援を行うとともに、育児用品購入への助成を行う。</p>		
事業実績・結果	<p>【産前・産後子育て応援事業】<事業費：1,994,405円></p> <p>子育て包括支援センターを拠点とした支援体制を整備し、妊娠届出時に可能な限り保健師と相談を行い、妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援を行なえるよう、子育て支援プランを作成し、心身両面の支援を行っていくとともに安心して地域で生活を送ることができるようにサポートを行った。</p> <p>○相談支援 電話（161件）、訪問（324件）</p> <p>○産前産後サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろば等（妊婦交流会を含む）（21回）、離乳食教室（5回）、産前産後ケア（申請13件） <p>○外出先への移動支援（1件）</p> <p>臨時職員（看護師）賃金、労働保険料、委託料、必要物品購入ほか</p> <p>【新生児誕生記念品贈呈事業】<事業費：1,033,500円></p> <p>新生児が誕生した家庭を保健師等が訪問し、精神的、身体的な応援を行うとともに、育児用品を贈ることで町を挙げて誕生を祝った。</p> <p>○育児用品 おしりふき 6パック（56枚入）/件 ゴミ袋 2ロール/件</p> <p>○記念品贈呈数 38件 （平成30年度出生数41人→令和元年度出生数47人→令和2年度出生数36人→令和3年度出生数41人→令和4年度出生数44人）</p>		
課題・問題点等	出生数を増やしていくことを目標に、継続して出産、育児の応援が必要となる。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
保健師による助言・指導への満足度 0%→70%	0	70	年間	87	81	86		
購入品への助成件数 0件/年→60件/年	0	60	年間	0 R3から申請 受付開始	23	48		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	2	現状維持	13	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
			2		13		0		0		0
<p>・支援や相談に力を入れられているのはとても良いと感じます。相談支援をメールやチャットで行えるようにもしてはいかがでしょうか。電話より気軽に行えると感じる世代の方もいらっしゃると思いますので、相談窓口の門戸を広げる意味でも、検討されてはいかがでしょうか。</p> <p>・引き続き専門家へ気軽に相談できる体制整備、早い段階から妊婦同士、ママ同士の横のつながりを持つようなサポートをお願いします。育児は母親だけの問題ではないので、パパ同士のつながりもあった方が良いかも知れません。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・令和5年2月の出産・子育て応援事業の開始に伴い、ZOOMによるオンライン面談の実施が可能となっております。平日の開庁日に限られますが、要望があればオンライン面談を実施したいと思います。保健課としては、直接対面しての相談支援も重要と考えております。来庁に限らず、保健師等がご自宅等を訪問した上での相談支援も継続して参ります。</p> <p>・子育て支援センターで、保健師や栄養士による育児相談、助産師等による子育て講座等を開催しています。お父さん方の参加も可能です。これらの利用について、さらに周知を進めて参ります。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー1
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	定住促進課
具体的な施策	① 結婚を支援する		
推進施策	ア 出会いの場の提供から結婚までの支援 ■ 出会いの場の提供と結婚までのサポート体制の強化		
事業概要	近隣市町と連携してのイベントの開催や結婚相談所への入会などにより出会いの場を提供する。また、結婚を希望する方と同世代の相談者の参画を促すなど結婚推進協議会の活性化を図るとともに、異性との話題作りやお付き合いの進め方など成婚につながる活動支援を進める。		
事業実績・結果	<p>【出会いの場の提供】〈事業費：1,691,456円〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婚活イベント4回、お見合い9回 参加人数 98名（うち町内38名） カップル成立数 16組（うち町内6名） イベント等参加者成婚数 1人 ・公式LINE開設（登録121名） イベント情報などを提供、登録者同士のお見合いを実施 <p>今後もイベントも行いつつ、より希望者に寄り添ったサポートができる体制を構築する。</p>		
課題・問題点等	イベントも行いつつ、より希望者に寄り添ったサポートができる体制を構築する必要がある。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
SNS交換時等のマナー講習会の実施 3回/年→5回/年	3	5	年間	3	6	4		
出会いの場のイベントへの町内参加者数 20人/年→25人/年	20	25	年間	28	43	38		
婚姻数 42件/年→50件/年	42	50	年間	25	29	19		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	3	現状維持	11	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<p>・今年度8/6に岡山乗馬クラブで婚活イベントがある。吉備中央町の良さを生かしたベストイベントだと思う。今後も継続し、他モデルの発掘に努めてほしい。</p> <p>・参加費無料もしくは値下げができないか。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・今後も観光施設などを活用し、参加したくなる婚活イベントを実施していきます。</p> <p>・婚活イベントでは、婚活を目的とする方以外の参加を防ぐため、ある程度の参加費をいただくようにしています。参加費の値下げなどはイベントを共同開催している他市町等の意見も参考にしながら検討していきます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー2
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	子育て推進課
具体的な施策	③ 子育てを支援する		
推進施策	イ 質の高い教育、保育の推進 ■認定子ども園の整備 ウ 子どもの安心・安全な居場所づくり ■キッズパーク等の充実		
事業概要	<p>【認定こども園の整備】 幼稚園、保育園を幼保連携型認定こども園に移行し、子どもの発達段階に応じた質の高い教育、保育を提供する。</p> <p>【キッズパーク等の充実】 町内の子育て親子に対し、町公式ホームページやママフレ等でのPRにより、キッズパークや屋外遊具の利用増加を図る。</p>		
事業実績・結果	<p>【認定こども園の整備】 平成30年4月、定員70名の吉備高原こども園が開園。旧吉備高原幼稚園を3歳以上児の園舎として使用、隣地に3歳未満児を保育する園舎を整備し、認定こども園として開園した。平成30年度50名、令和元年度62名、令和2年度81名、令和3年度101名（定員95名に変更）、令和4年度92名が在籍。なお、今後、園児数の減少を踏まえ適正な集団規模へ再編し、令和6年度こども園へ移行する。</p> <p>【子ども広場の整備】 平成29年4月、屋内型子どもひろば「キッズパーク」が、きびプラザ2階にオープン。令和元年度34,996人が利用（町内が14%、町外が86%）し10万人突破。令和2年度まで子育て広場「ゆう」を毎週月・水・金曜日に開催し、親子のふれあいの場を提供した。令和元年度には、きびプラザ芝生広場へ大型コンビネーション遊具、ネットクライミング等の遊具及び水遊び場「にじいろ広場」を整備した。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりキッズパークの休館や、利用制限等を行ったこともあり利用者は4,879人、令和3年度は8,760人となった。令和4年度は、20,407人（休日等の人数・時間制限のみ）</p>		
課題・問題点等	園児数の減少を踏まえ、適正な集団規模への再編が必要な状況になっている。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
認定こども園の整備 1か所→3か所 (令和6年度までに)	1	3	5年間 累計	0	0	0		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	3	現状 維持	11	内容 変更	1	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・キッズパークでのイベントの開催。NHKの「おかあさんといっしょ」の放映も検討してはどうか。またはその代替イベント。集客アップを図るべき。</p> <p>・キッズパークに魅力を感じない。エアークッション遊具があればと思う。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、イベント等は中止していましたが、絵本の読み聞かせ・バルーンアートイベントなど少しずつ緩和している状況です。</p> <p>・エアークッション遊具を設置するには、常に送風するための機械の設置、そこに子供が行かないようにするバリアケードの設置等かなりのスペースが必要だと考えられます。現在、大型遊具を複数設置しており、スペース的に新しい遊具を置くスペースを確保することが困難と考えられます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー3
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	教育委員会 子育て推進課
具体的な施策	③ 子育てを支援する		
推進施策	イ 質の高い教育、保育の推進 ■ 幼児の外国語とのふれあい推進 ■ 放課後学習の充実 ■ ICT教育の推進 ウ 子どもの安心・安全な居場所づくり ■ 子どもの安全な居場所づくり		
事業概要	<p>【幼児の外国語とのふれあい推進】 幼稚園、保育園及びこども園における日々の教育、保育の中で、自然に英語に触れる機会を増やし、豊かな知性と感性、国際的な感覚を身に付けた子どもを育て幼児教育性を高めていく。</p> <p>【放課後学習の充実】 公営塾で放課後の学習時間を確保することにより、学習意欲のある生徒を持つ家庭を支援し、学力の底上げを図る。</p> <p>【ICT教育の推進】 児童・生徒が、情報手段を主体的に活用する能力を身に付けるため、ICT教育環境の整備を図り、授業の質と学力の向上を目指す。</p> <p>【子どもの安全な居場所づくり】 放課後児童クラブの充実を図ることで、子どもの安全な居場所づくりを進め、保護者が安心して働ける環境をつくる。</p>		
事業実績・結果	<p>【幼児の外国語とのふれあい推進】 英語に親しむ、楽しむため、英語の先生を招いて、単元（色・数・形・野菜・動物など）、クリスマス、ハロウィン、手遊び、歌、ゲーム、絵本などを英語教育年間計画により行った。 保育園 20回/年 幼稚園・こども園 15回/年</p> <p>【放課後学習の充実】 公営塾 中学校生徒の学力向上を目指し、数学と英語を中心とした町営の学習塾を平成28年7月から下竹荘公民館で開塾している。R5.3月現在、42人が入塾しており、数学と英語の講師の授業を行っている。また、個人面談や三者面談にも力を入れており、生徒や保護者に寄り添い、個々に合った目標を設定するようになり、学力向上を図れたことの成果として全員が希望高校に合格できるようにしていく。</p> <p>【ICT教育の推進】 小・中学校の「新学習指導要領」の実施を見据え、よりわかりやすい授業実施を図るため、全小中学校にICT支援員を配置し、教職員の技能向上を行った。</p>		

課題・問題点等	<p>【放課後学習の充実】 【ICT教育の推進】</p> <p>○公営塾について R5.3月現在、1年生13人、2年生16人、3年生13人、合計42人が入塾しており、全校の20%程度である。多くの生徒に通塾してもらえるように、引き続き内容の充実を図り、塾の様子について町広報紙や塾だより等で広報していく。また、保護者の送迎を必要としないオンライン授業についても検討していく。その他、塾講師を地域おこし協力隊に依頼して運営しているが、吉備中央町での長期（4年以上など）塾講師がいない面での不安もある。</p> <p>○ICT教育について 児童生徒へ1人1台のタブレット学習ができるよう環境整備は完了した。今後は、教職員がどれだけ活用していけるかが課題であるため、専門的知識のあるサポーター体制が必要だが、業者委託となるため経費が多くなっている。</p> <p>【放課後児童クラブ】 放課後児童クラブに従事する指導員確保が困難となっている。</p>
---------	--

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値								
指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
公営塾の効果検証 1回/年	0	1	年間	2	3	2		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	3	現状 維持	10	内容 変更	2	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・タブレットの配布と関連して読書が減ったとの指摘がある。幼年期における脳の発達からもICT機器使用と活字の関係について、注意深く見ていく必要がある。</p> <p>・多様な文化や外国語との接点で言えば、この地域にも多くの研修生制度を利用した外国人がおられる。彼らは基本的に日本語の基礎を学んでおり片言での会話で生活している。そういった方々との交流が増えれば双方にとって良い影響があると思います。</p> <p>・学童で外国人先生がいるのに、英語で遊ぶなどを実施しないのは本当にもったいない事だと思っています。単語や言い方は、遊びの中でいつのまにか知っていたという状況がかなうのに本当にもったいないです。公教育外の充実は、小学校へあがるタイミングでの移住者を振り向かせることができますので、移住促進の要素も大きいと思います。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・ICT機器の利用については、従来の方法を含め「いい所どり」の観点でそれぞれの優位な面を状況に応じて使い分けを行う方針で取り組んでいるところです。</p> <p>・御提案内容も含め、地域の方と学校が協働で取り組むコミュニティ・スクールの充実に向けて進めて行くところです。</p> <p>・支援員の確保・受入体制に限りがあること、また、児童が安心して生活できる居場所を確保することが目的であるため、英会話に特化したクラブ運営は困難と考えられます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー4
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	保健課 総務課 教育委員会					
具体的な施策	③ 子育てを支援する							
推進施策	エ 子どものための経済的支援 ■子どもの医療費無償化 ■高校生の通学支援 ■育英資金貸付							
事業概要	<p>【子どもの医療費無料化】 子どもの健康保持と健康増進を図り、児童福祉の向上と保護者負担の軽減を図るため、子どもの医療費の自己負担分を助成する。</p> <p>【高校生の通学支援】 県内にある高等学校等への通学にかかる交通費、寮費等に対する助成により保護者の経済的負担の軽減を図る。</p> <p>【育英資金貸付】 勉学意欲がありながら、経済的な理由により就学が困難な高校生、大学生等の学費、通学費を奨学金として貸し付け支援する。また、卒業後も町内に居住する者には奨学金償還免除を行うことで定住促進を図る。</p>							
事業実績・結果	<p>○子どもの医療費無料化 令和4年度自己負担分助成実績額 合計38,590,968円 就学前 9,361,482円 小学生 14,106,633円 中学生 5,936,352円 高校生 9,186,501円</p> <p>○高校生の通学支援 町内に居住し、県内の高等学校等に通学する生徒の通学費等に係る保護者の経済的負担の軽減を図るため、通学等にかかる費用の一部を補助した。 令和4年度 195人（前年度比2人増） 13,918,300円（前年後比77,800円減） ・通学費支援 158人 13,919,000円 ・寮及び賃貸借支援 37人 2,034,000円</p> <p>○育英資金貸付 町内に在住し、勉学意欲がありながら経済的理由により修学困難な高校生、大学生等に貸付を行った。 高等学校：月額（学費）20,000円（通学費）15,000円 大学等：月額30,000円 〈令和4年度実績〉 育英資金貸付金 11,310,000円 ・新規貸付13名（大7名、高5名、高（通学費含む）1名） ・継続24名（大14名、専2名、高8名） 償還免除 3,607,500円 9月期：28名1,594,000円 3月期：36名2,013,500円</p>							
課題・問題点等	<p>【育英資金貸付】 償還免除制度が平成28年10月に施行され、年々償還免除総額が増額となり、一般会計からの繰入が必要となっている。これ以上の貸付金が大幅に増額すると特別会計での運営が困難になることから、令和5年度から償還免除は最大半額免除とした。</p>							
○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値								
指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
奨学金償還者の定住率 50%/年	—	50	年間	52	45	50		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	3	現状 維持	11	内容 変更	1	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・「町の将来を担う子供を増やす」という目標において子育て世代、またこれから子育てを行う移住・定住の方に強くヒットするところだと思います。町内に高校がないことから、高等学校等への通学はバスもしくは保護者の送迎が主になりますので、できれば継続した支援をお願いします。</p> <p>また、物価高の中ですので、育英資金貸付においても全額免除の復活も町への定住の要素の1つになるのではないのでしょうか。町にいていただけるお子さんには町をあげて全力で学習の機会を与えてあげるも重要だと思います。予算上の問題は民間同様に費用対効果に合わない箇所を削減すべきだと思います。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・育英資金においては、基本の原資が寄附から成り立っていること、無利子であること、全額免除は条件限られた一部の方に利益が集中することが必ずしも適正な運営ではないとの指摘を受け見直しを行ったものであります。高校生通学費等補助金につきましては、保護者の経済的な負担の軽減を図るため、町の財政負担も考慮しつつ、継続的に実施していきたいと考えております。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー5
------	-------	-------	-----

基本目標	1 町の将来を担う子どもを増やす	担当課	教育委員会					
具体的な施策	③ 子育てを支援する							
推進施策	オ 子どもは町全体で育てる ■地域ぐるみの子育て							
事業概要	地域学校協働本部や放課後子ども教室、防犯パトロールなど地域ボランティアを中心に地域ぐるみで子どもを見守り育てる。また、地域ボランティアの後継者の確保・育成を図り体制の充実を図る。							
事業実績・結果	地域のボランティアにより、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる取組を実施した。 ・学校地域支援本部 4か所設置（円城・豊野・上竹・大和） ・放課後こども教室 2か所設置（御北・大和）							
課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で見守り活動をしながらか子どもを育てる必要性がある。 ・すべての地域、学校で実施されていないことから未実施の地域、学校へ積極的に働きかける必要がある。 ・小学校の統合の問題はあるものの、学校単位として捉えるのではなく、それとは別に地域として捉えて学校地域支援本部、放課後こども教室について、全町に拡大していく方策を早急に研究していく必要がある。 ・ボランティア（地域学校協働活動推進委員・サポーターなど）の一人あたりの負担が大きくなっており、スタッフの確保が課題である。 							
○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値								
指標	基準値（R1）	目標値（R6）	考え方	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績
地域学校協働本部件数 4校→7校（令和6年度までに）	4	7	年間	4	4	4		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	1	現状維持	13	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・有償ボランティア制度の導入などボランティアの確保が必須。 ・地域によって地域学校協働本部が設置されていない。設置については地域の方とよく話し合いながら進めて欲しい。ボランティア募集はホームページや広報誌へ継続的に掲載するなどして、活動の周知と人材の発掘を進めていただきたい。必要に応じて謝金を支払うなど、課題解決を優先すべきである。 ・防犯パトロールの順路をもっと見直し、本当に人が少なく危険な箇所を重点的に巡回できるようにしたい。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの体制整備は重要であると考えています。引き続き人材発掘の策を検討していく所存です。 ・現在、4小学校区に地域学校協働本部が設置されています。今後の学校統合も鑑みながら、引き続き設置の推進を行っていく所存です。地域学校協働本部へは事業費として委託金を支出しており、各協働本部で委員の方への謝金も支払われています。今後も人材発掘の策を検討していく所存です。 ・地域でいただいたご提案をそれぞれの学校で汲み取り、PTAの通学路危険箇所等の改善提案に上げていただくようお伝えしていく所存です。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー6
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	定住促進課
具体的な施策	① 稼ぐ地域の創出と就労の確保		
推進施策	ア 企業の立地と投資の促進 ■企業誘致の促進		
事業概要	幅広い職種の企業・事業所を誘致し、町の財政基盤の強化、地域経済の活性化を図るとともに、雇用機会の創出により地域活力の担い手が安心して働ける環境を整備する。		
事業実績・結果	企業立地問い合わせ企業社数 3社		
課題・問題点等	・吉備高原都市産業区への企業誘致が完了し、町内の公的団地用地は完売となった。今後は、県が主催する企業立地セミナーや展示会を通じて、企業の設備投資の状況を確認しながら、新たな立地場所の確保が必要である。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
設定なし ※基本とする目標において、誘致企業数・事業所数→令和6年度までに2社を設定	—	—	—	—	—	—	—	—

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	4	現状維持	10	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<p>・企業誘致から起業家の誘致にスタンスを移すべき。ネットの普及により、リモートワークや個人起業者が増加傾向にある。ネット環境を整備し若者企業者を呼び込む。</p> <p>・利活用の土地確保は時間がかかる。現実的な方策として統廃合後の廃校を企業誘致の土地としてPR願いたい。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・ご指摘の通り今後は起業家によるスタートアップ企業が産業の成長を促すと予測されています。当町では、吉備高原オープンイノベーション協会を通じた起業家支援を進めるとともに、国際オープンイノベーションセンターや現在建設中のNスクエアが、スタートアップ企業の支援が可能な民間運営のワーキングスペースとして活用できるなど、起業家にとってメリットとなる状況が整いつつあることから、今後も着実に事業を進めていきたいと考えています。</p> <p>・統廃合により廃校となった小学校跡地に関しては、地域での活用希望を優先的に考慮しながら、活用可能な跡地を企業誘致用地としても活用していきたいと考えています。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー7
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	協働推進課 定住促進課
具体的な施策	① 稼ぐ地域の創出と就労の確保		
推進施策	イ 起業の支援 ■起業家の育成 ウ 就労の支援 ■就労支援		

事業概要	<p>【起業家の育成】 起業支援事業制度の周知徹底を図るとともに、創業支援等事業計画に基づいて、町商工会との連携を深化させ、創業しやすい環境づくりに努める。</p> <p>【就労支援】 事業所やハローワーク、商工会等関係機関との連携を密にし、就労希望者が町内企業を知る機会の創出を進め、就労と雇用の促進を図る。</p>
------	---

事業実績・結果	<p>○起業家の育成 若い世代の就労の確保と若者や移住者等の夢をかなえるため、若者や移住者等の起業に対し、町商工会や金融機関と連携して支援を行った。 ・創業支援事業 申請件数5件（5件認定） 交付額 3,885,000円 ・事業継承支援事業 申請件数1件 交付額 200,000円</p> <p>○就労の支援 就労を希望される方に向け、ハローワークの求人情報の紹介や、企業ガイドを年度毎作成し内容紹介や、県内高等学校への企業ガイドの配布を行い、就労に向けた支援を行うとともに、就労後は就業奨励金の交付や、就職者の激励会を行うことで、就労者の意欲の向上と定着を図った。 ・ハローワーク求人情報等の配布 週1回 ・ハローワークから雇用情勢資料の提供 1回/月（岡山・高梁） ・県内高等学校への企業ガイドの改訂・配布 1回/年 ・（高梁・吉備中央）ミニ面接会 年/4回実施 参加者18名 参加事業者（高梁市4社、吉備中央町4社） 産業事業説明会年/1回 参加企業31社 参加者31名 町内企業事業者への就職者114名（うち町内在住者39名）</p>
---------	---

課題・問題点等	<p>【起業の支援】 町商工会や関係機関と連携を図り、事業の周知に努めるとともに、相談者へ対して丁寧な説明を実施していく必要がある。 また、R5年度より創業・継承補助金ともに対象経費の3分の2補助とし、一般と移住者との区分を撤廃し、より多くの方に活用してもらえる制度にしております。</p> <p>【就労の支援】 ・岡山県内では、コロナ禍ではあるが有効求人倍率が高い状態が続いている。 ・町内には、県立高校がなく、高校、大学進学を機に町外へ行くことになり、そのまま就職することが多く、町内在住者の雇用確保が足りない状況である。 ・少子高齢化により更なる人手不足が予測される。 ・町内新卒者、就業希望者だけでは、町内企業の求人数を充足させることができないため、移住者への就業促進強化も必要となる。</p>
---------	---

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
事業を通じた新規雇用者数 20人/年	—	20	年間	56	62	114		
創業した数 2件/年	—	2	年間	2	3	4		

〇まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	6	現状維持	9	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・吉備中央町へ移住する年齢層は40才以下と40才以上の割合はほぼ50：50である。40才以上の誘致を促進すべきである。自然豊かな吉備中央町はうってつけである。 ・地盤が強固ということに加え、交通量が少ないので振動も少なく、精密機械の製造や、精密さが要求される研究などには最適な環境だと思われるので、そうした研究施設（官民間問わず）などにアプローチするのも良いのではないのでしょうか。 ・Nスクエア、イノベーションヒルズなどが効果的に機能すれば、企業、起業家の誘致につながっていくと思われます。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の住みたいまち定住促進制度のU I ターン奨励金などは、若者定住を目指して50歳以下を対象としています。ご指摘の点に関して、令和7年度からの制度改正時に現行制度と比較しながら検討していきます。 ・新吉備中央町企業立地促進奨励金交付規則において、ご指摘の研究所は製造工場と同様に、立地を促進する業種となっていることから、企業立地セミナーなどの機会を通じた誘致活動を今後とも行っていきます。 ・ご指摘の2施設を中心に吉備高原オープンイノベーション協会などの関係団体とも連携しながら、スタートアップ企業や起業家の誘致、育成を進めていくよう考えています。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー8
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	定住促進課
具体的な施策	② 移住・定住への受け入れ		
推進施策	ア 移住・定住の促進 ■お試し暮らし制度の活用 ■民間団体と連携した定住支援		
事業概要	<p>【お試し暮らし制度の活用】 移住希望者に一定期間、町での暮らしを体験できる機会を提供し、気候や風土を体験することにより、町への移住を促進し関係人口の増加につなげていく。</p> <p>【民間団体と連携した定住支援】 民間団体と連携し、移住希望者に対して、定住相談、移住セミナー、イベントの開催をすることで、町への定住促進と関係人口の創出・拡大を図るとともに、移住後のサポートを充実していく。</p>		
事業実績・結果	<p>○お試し暮らし制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お試し暮らし住宅 町内へ移住を検討されている方に、町内の風土や日常生活を体験できる住宅を提供した。 お試し暮らし住宅利用件数 3家族10人 ・お試し暮らし支援事業補助金 移住希望者が移住活動を行うために、町内の施設に宿泊する場合、対象経費から1千円/泊を控除した額を補助する制度（上限7泊分） お試し暮らし支援事業補助金 33件 416,340円 <p>○民間団体と連携した定住支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住、定住相談対応 移住希望者等からの相談に対して、適切な対応（情報提供・現地案内等）及び対応後のフォローアップを実施した。 相談件数 159件 移住者数 13人 移住希望者及び移住者向け交流会の参加 6回 ・ウェブサイトやSNS等を活用した情報発信 まちや地域の情報及び移住者の暮らしなど効果的な情報配信を行った。 ウェブサイトやSNS等を活用した情報発信 4回 		
課題・問題点等	<p>コロナウイルス感染拡大に伴い、イベントや現地対応等の制限がある中で、まちの魅力や移住定住施策等の情報をSNSなどを活用して効果的に発信し、関係人口の創出・拡大に取り組む必要がある。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
お試し暮らし支援事業補助金交付世帯 10世帯/年	7	10	年間	11	9	33		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	2	現状維持	12	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<p>・移住には住居が不可欠な為、各イベントの中に空き家物件ツアーを織り込む事はできないか検討願いたい。</p> <p>・保育園（こども園）の一時預かり事業と空き家お試し暮らし、農家での収穫体験などを組み合わせた短期（2、3週間）滞在プランで小さなお子様を預けながら親はリモートワークでのワーケーションとすることを事業化している事業者もあります。自然豊かな中でお子様を育てたいというニーズのある層に訴求すれば効果があるかも知れません。</p> <p>・移住・定住をどの世代にボリュームを持たせていきたいかによるかと思いますが、月単位で小学校や保育園に体験入学などはできないのでしょうか。リモートワークOKの保護者の場合、移住の確度がとても高くなりますが、日中子どもを保育園や小学校にあずけて様子を見てたいのでは無いかと思います。前例はないと思いますが、移住先を検討する際にお試し暮らしを進めやすくなるかと感じました。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・岡山市を中心とした連携中枢都市圏事業での移住希望者を対象としたバスツアーでは空き家の紹介なども行っていたが、令和4年度でバスツアーが終了したので、今後は代替イベントなどを検討していきます。</p> <p>・お試し移住活動への支援として、年度ごとに7日間まで利用可能なお試し暮らし支援事業補助金を用意して、移住を目的とした方向けの事業を行っています。</p> <p>・月単位での体験入学は現在行われておりませんが、各小学校の見学は保護者と児童で行えらるとともに、様々な相談にも対応していくことで、移住に向けたフォローを行って行きたいと考えています。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー9
------	-------	-------	-----

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	建設課
具体的な施策	② 移住・定住への受け入れ		
推進施策	ア 移住・定住の促進 ■若者向け住宅の利用の促進		
事業概要	若い世代やUIターン希望者の定住を促進するため、整備した住宅の利用促進を図る。		
事業実績・結果	<p>吉備高原都住宅では、令和元年5月から入居募集を開始し、その後は随時募集を行っている。一次募集開始当初は、単身向け10戸中2戸、家族向け15戸中3戸の入居でとどまり、「入居率20%」という想定以下の滑り出しとなった。しかし、PRの効果もあり単身向け10戸、家族向け15戸が入居し、「入居率100%」と目標の98%を上回る結果となった（令和5年3月末現在）。</p> <p>今後は、さらに管理運営業者（指定管理者）との連携も強化し、入居者の快適な居住運営を目指す。</p> <p>【令和4年度事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料（施設整備費の割賦払い分） 3,793,133円 ・指定管理料（維持管理・運営に係るサービス対価）4,583,084円 		
課題・問題点等	入れ替わりが多少はあるものの、概ね入居率100%を保っている。今後は、より入居者の安心安全に留意し、住みよい住環境の提供に努める必要がある。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
設定なし	—	—	—	—	—	—	—	—

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	2	現状 維持	13	内容 変更	0	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・民間賃貸住宅の建設促進に繋がる効果的な助成制度と分譲地内住宅用地及び周辺用地等への集合住宅利用が可能な環境整備を進める必要がある。</p> <p>・都市内の中古物件（空き家に見える物件）が増えている。売却、賃貸物件を発掘し、空き家バンクなどで積極的な発信が必要。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・民間賃貸住宅及び集合住宅のニーズは町執行部内においても議論された経緯もあり、今後も引き続き検討いたします。</p> <p>・吉備高原都市内の空き家解消のため、令和2年から吉備高原都市内の空き家を売却した場合に所有者に奨励金を支出する、吉備高原都市空き家購入奨励金をスタートし、令和5年9月までに10件の申請を受けるとともに、賃貸での活用も進んでいます。これらの要因として民間不動産業者の参入もあることから、今後も連携しながら事業を推進していきます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー10
------	-------	-------	------

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	農林課
具体的な施策	③ 農業振興、人材育成		
推進施策	ア 農業後継者の育成 ■新規就農者育成		
事業概要	新規就農者を積極的に確保し、農業公社等で農業研修を実施するとともに、研修終了後も独立に向け、幅広い支援を行う。また、現在実施しているピオーネ栽培の研修に加え、その他作物については、備前広域農業普及指導センターと連携し、栽培技術指導を行っていく。		
事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者等の円滑な就農を目的に岡山県就農促進トータルサポート事業（帰農者支援事業）によりピオーネ栽培講習を実施した。10回／年 受講者16名 ・備前広域農業普及指導センターと連携し、作目ごとに栽培技術指導を行った。果樹（ぶどう）での就農3名 ・就農フェア等には新型コロナウイルス感染症の影響により参加できなかったが、現地見学ツアーの受入2回、個別による就農相談により、新規就農者の確保に取り組んだ。令和4年度の農業公社での実務研修生は、新たに1名が開始した。 		
課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響等により、地方への移住・就農を希望する相談は多くなっているものの、農業後継者の育成は地域の担い手としての定着が課題である。しかし、個々の営農形態は複合経営や半農半X等多様化しており、地域の担い手という意識は薄らぎつつある。 ・そのため、今後も農業経営者クラブへの参加の誘導、また人・農地プランの作成の支援により、人的ネットワークの醸成を図る必要がある。 		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
新規就農者の数 5人/年（5年間で25人） （令和2年度～令和6年度）	2	25	5年間 累計	5	5	6		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	2	現状 維持	13	内容 変更	0	事業 縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうでの新規就農では棚の建設費が高く初期費用が掛かるので、町が建設して賃貸契約をするメガ団地を整備すれば新規就農がしやすくなると思います。 ・新規就農者支援事業でピオーネ栽培は着実な成果をあげている。今後の支援事業にピオーネの他、水稻を加え稲作農家の就農も図るべき。 ・付加価値の高い農産物であれば可能性は広がりそうです。ワインブドウ栽培、ワイナリーなども可能性としてはありかと思えます。 ・儲かる農業・魅力ある農業の担い手の育成。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・灌水施設が整った（水源のある）遊休農地等、条件が良くまとまった農地があれば、前向きに検討いたします。 ・ピオーネの反所得68万円に対して水稻の反所得は4.5万円であり、当町のような中山間地では新規就農者が生計を立てられる面積を確保するのは困難と考えます。 ・当町には醸造用ぶどうの栽培・委託醸造でワイン製造・販売を目的に就農された方がおられ、今後も普及に努めたいと考えます。 ・当町では研修や補助金、及び団体などのサポート体制が確立しているぶどうが適していると考え、振興を図ります。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー11
------	-------	-------	------

基本目標	2 町を支える宝（若者）を残し、転入により新しい風を呼び込む	担当課	農林課
具体的な施策	④ 農産物の付加価値化、特産品開発		
推進施策	ア 農産物の付加価値化、特産品開発 ■農産物の付加価値化の推進 ■魅力的な特産品づくり		
事業概要	【農産物の付加価値化の推進】 「6次産業化・地産地消推進戦略」を策定し、農産物の加工、販路の開拓、農産物の魅力等情報の発信手法について検討・促進することで魅力アップにつなげ稼げる農業の育成を図る。 【魅力的な特産品づくりの支援】 町内農産物の消費拡大に繋がる特産品や加工品の開発を支援する。		
事業実績・結果	○農産物の付加価値化の推進 加茂川いちじく研究会が吉備中央町ふるさと特産品開発事業を活用し、いちじくの新たな販路を確保するために、新たな梱包資材の開発を行った。 ○22世紀の理想郷づくり事業への新規登録産品（特産品づくり） ・ハクトモチ（（農）大明神組合） ・自然栽培（トマト・梅・ブルーベリー）ジュース（（株）三穂の郷） ・乾燥きくらげ（みすたーきくらげ）		
課題・問題点等	吉備中央町の特産品・農産物の消費拡大を図るために、6次産業化・地産地消を推進するには、行政主導では限界がある。生産・加工、そして最も重要な販売について、展望と戦略を持った意欲ある生産者・生産組織の発掘を行う必要がある。 また、系統出荷できない規格外品の農産物などを加工し、収益化を図ろうと考える事業者はいるが、卸売業者や小売店、飲食店や宿泊施設などの観光施設等の実需者への直接販売または、ECサイトを活用した一般消費者への直接販売など、販売まで一貫して行うまでが6次産業化なので、販売戦略まで生産者や生産組織に求めることが困難であることが課題となっている。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
特産品の開発 5年間で15品以上 (令和2年度～令和6年度)	2	15	5年間 累計	3	3	3		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	2	現状 維持	13	内容 変更	0	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・このアイテムにはPRが最大のポイントと考える。6次産業を進展させる為、生産－製品－販売までのPR動画を作成し、幅広く広報していただきたい。</p> <p>・Webサイト作成や地域イベント、フードフェアなどに参加するときには、費用の一部を補助するなどの支援も検討してはどうか。農産物や特産品についてホームページでも紹介されているが、紹介数を増やしたり、写真や文章を工夫して閲覧者の購入意欲を高めるものに改善してはどうか。有名人やインフルエンサーとのコラボレーションや口コミの活用などもPR効果が高いと思われるので、地域観光や文化などと連携した取組みを目指してほしい。</p> <p>・開発した商品を訴求する事は労力が本当にかかると思います。商品開発の段階からティザーしてそのサポートをしてあげて行く事も考えてよいと思います。商品をリリースするタイミングでは、既にファンがいる状態を作る事を目標とします。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・広報活動を計画したいと考えております。</p> <p>・効果がありそうなものについては検討したいと考えております。</p> <p>・備前県民局等との連携により、より良いサポートができるように働きかけます。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー12
------	-------	-------	------

基本目標	3 安心して暮らせる環境をつくる	担当課	総務課
具体的な施策	① 交通手段の充実		
推進施策	ア 公共交通の体制整備 ■公共交通体制の整備・充実 イ 次世代の公共交通体制に向けた取組 ■吉備高原都市自動運転モビリティ事業		
事業概要	<p>【公共交通体制の整備・充実】 吉備高原都市から岡山市方面への移動手段の充実を図るために、路線バスの利便性の向上に向けた取組を促進する。町営バス「岡山医療センター線」は、周知をより一層図り、持続可能なバス路線とすることを目指す。民間事業者の運行する路線バスは、事業者と密に連携をとり、引き続き安定した運行ができるよう相互に協力していく。また、町内各地から吉備高原都市へのアクセス向上に向け、町内幹線を走る巡回バスの運行、デマンドタクシー等を活用した複合的な交通体系の構築を目指す。</p> <p>【吉備高原都市自動運転モビリティ事業】 吉備高原都市区域内を巡回する自動運転モビリティの導入により、都市内の交通利便性の向上を検討していく。</p>		
事業実績・結果	<p>○公共交通の体制整備 ・平成30年3月に策定した吉備中央町地域公共交通網形成計画に基づき、令和元年6月から、きびプラザと岡山医療センターとを結ぶ町営バス「岡山医療センター線」の運行を開始している。「岡山医療センター線」を持続可能なバス路線とすることを目指して、令和3年10月からきびプラザを起終点として町内を8の字に巡回する「へそ8バス」の実証運行を開始することで、町内の各地から吉備高原都市までのアクセスの充実を図っている。 ・新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛や病院における通院回数の減少と面会制限により、吉備高原都市と岡山市を結ぶバス路線の利用者数については、令和3年度が49人/日、令和4年度が50人/日に留まっている。</p> <p>○吉備高原都市自動運転モビリティ事業 自動運転モビリティ事業については、デジタル田園健康特区やデジタル田園都市国家構想で検討している事業内容を踏まえて、吉備高原都市内の交通の利便性向上を検討していく。</p>		
課題・問題点等	<p>・町営バス「岡山医療センター線」を持続可能なバス路線とすることを目指して、必要な周知、対策が必要である。 ・新型コロナによる利用者数の減少については、交通手段の充実だけでなく、イベントの開催等により外出機会を創出していく必要がある。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
吉備高原都市と岡山市を結ぶ路線バスの利用者数 1日平均延べ人数 84人→200人	84	200	人/日	43	49	50		
町内各地から吉備高原都市までの公共交通体制の整備→町内全域	—	町内全域	R6 時点	整備に向け検討中	町内全域	町内全域		

〇まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	3	現状維持	11	内容変更	0	事業縮小	1	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・大型スーパーへの乗り入れがあればいいと思います。 ・現状の利用状況は不明ですが、今後高齢化により交通手段に限られる方が確実に増えていくことが確実であるため、「へそ8バス」の活用はぜひ継続していただきたいと思います。 ・吉備高原都市自動運転モビリティ事業がどの程度計画されどのように具体化されようとしているのかによって吉備高原都市の環境は大きく変わると思うし移住定住にも大きく影響すると思う。 ・へそ8バスなど、公共交通が一定確保する必要があることは理解するが、交通弱者のフォローには限界がある。年々高齢化は進んでおり、方向性としてはドア・トゥ・ドアに進まざるを得ない。現行のふれあいタクシーの利便と補助率のアップ。地域の助け合い交通の仕組みの構築。 ・曜日、季節によってはバス等の交通の便数を増減してもよいのではないのでしょうか。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・路線が重複する民間バス事業者との協議や調整が必要となりますので、引き続き検討課題とさせていただきます。 ・利用状況や利用者からのご意見を基に改善を図りながら、事業の見直しを進めてまいります。 ・吉備高原都市自動運転モビリティ事業につきましては、現時点で具体的な計画はございませんが、国庫補助金を活用した実証実験等に積極的に取り組んでまいります。 ・現在、地域公共交通計画に基づき、デマンド型乗合タクシーの充実を図り、ドアツードア方式の交通手段の確保を推進しています。上記の計画に基づき、ふれあいタクシー制度の見直しや助け合い交通の導入も進めてまいります。 ・現在の利用状況においては、曜日等による利用の偏りは生じていませんので、引き続き利用状況を注視してまいります。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー13
------	-------	-------	------

基本目標	3 安心して暮らせる環境をつくる	担当課	保健課
具体的な施策	② 医療の充実		
推進施策	ア 医師の確保 ■地域医療の充実 ■医師等の確保対策		
事業概要	<p>【地域医療の充実】 子どもから高齢者までが安心して暮らせるために医療機関に対して継承の支援、診療科目の充実を図る。特定の診療科目については、診療所へ医師の派遣を継続する。</p> <p>【医師等の確保対策】 医療機関の不足、個人医における高齢化や委託医に対して、医学生等への奨励金や医療機関の継承支援などにより医師等の人材確保に取り組む。また、ICTを活用した遠隔医療の導入等について検討を進めていく。</p>		
事業実績・結果	<p>○地域医療の充実 特定診療科目（眼科・皮膚科）について、診療所への医師の派遣の継続 ・下加茂診療所 眼科：第1、3、5火曜日 皮膚科：毎週水曜日</p> <p>○医師等の確保対策 医師等確保特別対策補助金交付実績：令和28年度 1件</p>		
課題・問題点等	個人医においては、高齢化や委託医化が進んでおり、今後は医師の人材確保の支援等が必要である。		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
入院対応できる内科の医療機関 2医療機関以上維持	2医療機関維持	2医療機関維持	年間	2医療機関維持	2医療機関維持	1医療機関		
特定科目診療所 2か所運営・2か所継続、充実	2か所 運営・継続	2か所 運営・継続	年間	2か所 運営・継続	2か所 運営・継続	2か所 運営・継続		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	4	現状維持	11	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・現状から後退させない。 ・デジ田での誰一人取り残さない活動に期待する。 ・医療の充実はもっとも重要なテーマであるから、できる限り支援していただきたい。 ・デジ田特区の活用により、地域医療の充実をはかる。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・今後、デジタル田園健康特区事業の推進において、遠隔診療の実施体制整備を行い、町民の皆様の通院の負担軽減、利便性の向上を図って参ります。また引き続き、医療従事者の人材確保につきましても対策を更に充実させていきたいと考えています。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー14
------	-------	-------	------

基本目標	3 安心して暮らせる環境をつくる	担当課	企画課
具体的な施策	③ 地域経済環境の整備		
推進施策	ア 地域経済環境の整備 ■買い物環境の充実 ■魅力的な店舗の誘致 ■AI・IoTの活用の推進		
事業概要	<p>【買い物環境の充実】 買い物弱者が安心して生活できるよう、民間の移動販売業者等と協力体制を整備し買い物支援策の拡充を図る。また、移動手段の確保、交通環境の整備に向け関係団体と協力体制の整備を進める。</p> <p>【魅力的な店舗の誘致】 町の拠点に、1か所での買い物が可能な複合施設等の誘致を促進するとともに、既存小売店への支援策について検討していく。</p> <p>【AI・IoTの活用の推進】 AI・IoT活用による未来技術やドローン等の活用を取り入れた、新しい買い物環境の整備を研究していく。</p>		
事業実績・結果	<p>○買い物環境の充実、魅力的な店舗の誘致、AI・IoTの活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物環境整備計画に基づき、「商品を届ける」「移動手段を提供する」について、買い物代行サービスの組織化や小売店舗への送迎サービスなど、これまで関係団体等で研究を行ってきたが、実現可能な方策まで至っておらず、関係団体で引き続き効果的な取組について情報収集に努めている。 ・また、複合施設の誘致に向けて、民間企業への働きかけを行っているものの人口の規模や継続運営が見込めるかなどの面から誘致には至っていない現状である。 ・本町は令和4年4月に国家戦略特別区域にデジタル田園健康特区として追加されたため、地域医療の課題解決に本格的に取り組むとともに、デジタル技術を活用した物資の配送や、助け合い交通などによる高齢者等の交通手段の確保に向けた取り組みなども検討している。 		
課題・問題点等	<p>「商品を届ける」「移動手段を提供する」について、買い物代行サービスの組織化や小売店舗への送迎サービスなどについて、実施まで至っておらず、実施に向けては、町商工会等関係団体と効果的な取組となるよう検討が必要である。</p> <p>また、複合施設の誘致に向けて、民間企業への働きかけを行っているものの誘致には至っていない。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
買い物支援対策地区 1地区/年度 (令和6年度までに5地区)	1	5	年間	0	0	0		
複合施設誘致店舗数 0店舗→1店舗 (令和6年度までに)	0	1	R6 時点	0	0	0		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	3	現状維持	10	内容変更	2	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・大型スーパーや薬局の誘致をお願いしたい。 ・人口減少や高齢化に伴い、町内商店や飲食店の減少が確実に進んでいると感じます。また、そのような中で民間企業が町内への店舗設置に難色を示すことも十分理解できます。医療品や生活用品などの商品を届けるドローンの活用モデル都市として買い物環境の拡充をしていただければと思います。 ・大型店舗の誘致は人口が2,000人以上増えなければ無理。買い物難民はほぼ高齢者でスマートフォンでの注文には限界があり、移動販売の充実が現実的。 ・買い物系のサポートは何らかの形で進んでいけばと思います。共栄さんなどの移動販売もありかなと思います。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーや薬局などの店舗を誘致するため、事業者に対し働きかけを行なってまいりましたが、残念ながら成果が上がっていません。引き続き誘致を行ないます。 ・ドローンを活用した買い物支援は全国的に実証実験が行われ、そのうち社会実装に至った自治体もわずかにあります。今年度、本町においても活用の可能性について検討しましたが、社会受容性の醸成や安全性の確保など課題も多いので、実現に至っていません。引き続き検討いたします。 ・大型店舗の誘致は人口が増加しないと無理とのご指摘ですが、要望は多数ございますので、前述のとおり誘致活動は継続します。移動販売については、町内事業者等の自助努力により、本課題を補っていただいております。引き続き動向をうかがいます。 ・移動販売は町内事業者等の自助努力により、買い物が不便な地域を補っていただいております。引き続き動向をうかがいます。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー15
------	-------	-------	------

基本目標	3 安心して暮らせる環境をつくる	担当課	企画課
具体的な施策	④ 拠点づくり		
推進施策	ア 町の拠点、地域の拠点の整備 ■吉備高原都市の整備促進 ■小さな拠点の整備		
事業概要	<p>【吉備高原都市の整備促進】 吉備高原都市を町の拠点として位置づけ、岡山県と連携し、きびプラザの活性化、吉備高原都市への企業誘致や宅地分譲を引き続き進めるとともに、情報通信基盤の環境整備や岡山市への公共交通網の充実、魅力的な店舗の誘致など魅力づくりを進める。</p> <p>【小さな拠点の整備】 生活サービス機能や地域活動の拠点としての役割を持つ小さな拠点づくりを推進するため、地域住民自らが地域を支え活動する新山地区の取組を一つのモデルとし、各地域において日常的な生活サービスの確保を図る取組を支援する。</p>		
事業実績・結果	<p>【吉備高原都市の整備促進】 町の拠点と位置づける吉備高原都市の活性化を図るため、県・地元・町が連携し、吉備高原都市の中核施設である、きびプラザの機能強化や、宅地分譲の促進を図るため都市創造推進チームにおいて都市の魅力づくりに向けた協議を進めている。また、吉備高原都市を区域としたスーパーシティ構想では、地域課題や社会課題の解決に向け、医療・福祉・教育・地域の活性化を重点に、提案したところ、令和4年4月に国家戦略特別区域にデジタル田園健康特区として本町が追加された。この特区は吉備中央町全域として指定されたが、引き続き、吉備高原都市を中心として先端的技術を活用した取組の検討を進めている。</p> <p>【小さな拠点の整備】〈補助金額 1,392,072円〉 令和元年度から取り組んでいる新山地区の小さな拠点事業（新山ほほえみ笑店・無償送迎サービス・地域介護予防活動支援事業）に対して、補助金を交付した。 なお、令和3年度においては新たな整備には至っていない。</p>		
課題・問題点等	<p>・吉備高原都市の中核施設である、きびプラザの利用者の利便性、満足度の向上や大型店舗の誘致など町の拠点として吉備高原都市の魅力・機能を強化するとともに、売れ残っている分譲地の販売促進を図り、定住人口の増加に結びつける必要がある。</p> <p>・小さな拠点の形成に際しては、それぞれの地域の実情も異なることから、地域住民といっしょに効果的な取組を研究していく必要がある。また、持続可能な取組となるためには、活動経費や運営経費など取組に必要な経費の捻出や、活動を支える人材の確保・育成が課題と捉えている。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
宅地分譲数 10件/年→30件/年	10	30	年間	14	24	52		
小さな拠点の整備 1か所→3か所 (令和6年度までに)	1	3	R6 時点	0	0	0		

〇まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	2	現状維持	12	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・町の中核拠点整備のため吉備高原都市センター区の整備を我が町だからこそその整備方向を再設計して今がチャンスととらえ進める。 ・地域の支え合いによる小さな拠点の整備が鍵。 ・吉備高原都市の特徴を活かしながら注力が必要な取り組みだと感じます。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の計画等（マスタープラン等）とスーパーシティ構想を踏まえ、方向性を検討します。 ・新山地区で小さな拠点事業として、令和元年度に「新山ほほえみ笑店」が整備されました。この店舗を地域住民が主体となって、小売り・送迎サービス・サロン等を運営しています。他の地域で地元要望がありましたら、この事例をモデルとして推進いたします。 ・豊かな自然と共生する特性を活かし、都市整備を促進します。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー16
------	-------	-------	------

基本目標	3 安心して暮らせる環境をつくる	担当課	協働推進課 総務課 住民課
具体的な施策	⑤ 協働の推進と地域力の強化		
推進施策	ア 町民参画、協働の推進 ■協働のまちづくり推進 ■地域防災力の強化 ■安全及び防犯対策の実施		

事業概要	<p>【協働のまちづくりの推進】 行政や町民、自治組織、各種団体等が地域等の課題を共有し、連携・協力して解決に取り組むための基盤づくりと人材の育成に取り組む。また、地域や団体等が行うまちづくり事業を助成し、その普及に努める。</p> <p>【地域防災力の強化】 人口減少、少子高齢化の進行に対応するため、小さな拠点づくりを支える地域での連携・協力体制を整備するとともに、安心して暮らしていけるよう地域で協力して災害に対応できる共助を構築するための環境整備を進める。</p> <p>【安全及び防犯対策の実施】 地域住民が、日々安心・安全に暮らせるよう、地域における安全対策、防犯対策について、子どもや高齢者を地域で見守る体制整備、主要幹線道へ防犯カメラを設置する環境整備を進める。</p>
------	---

事業実績・結果	<p>○協働のまちづくりの推進 <補助金額1,100,000円> 協働でひらく新たなまちづくり実践事業補助金 ・R2年3件（協働の町づくり実践事業1件、地域活動支援事業2件）合計600,000円 ・R3年3件（協働の町づくり実践事業2件、地域活動支援事業1件）合計550,000円 ・R4年2件（協働の町づくり実践事業2件、地域活動支援事業0件）合計344,000円</p> <p>○地域防災力の強化 <補助金額507,400円> 地域防災のリーダーを育成するため、防災士資格取得に係る経費を町が負担した（取得者21名）。</p> <p>○安全及び防犯対策の実施 防犯カメラ設置支援事業補助金制度を創設し、犯罪被害等を未然に防止する環境整備を行うために防犯カメラを設置する団体に対し補助金を交付する事業であるが、申請が取り下げられたため4年度の実績は0件</p>
---------	---

課題・問題点等	<p>【協働のまちづくり推進】 事業実績件数は減少傾向にあり、地域に根ざした協働による地域づくり促進のため、補助制度そのものの周知が不十分である。また、一般・支援事業ともに3年間の交付期限を設けているため、期限満了後の補助支援策、予算措置を他課を交えながら検討していく必要がある。</p> <p>【地域防災力の強化】 防災士資格取得後の活動方法等の周知が課題となっている。</p> <p>【安全及び防犯対策の実施】 警察など関係機関との連携はもとより、地域一体となった防犯対策に取り組む必要がある。</p>
---------	---

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
町の補助金を活用した防災士資格を取得した者の数 10人/年	4	10	年間	1	21	18		
防犯カメラの設置数 10か所/年	0	10	年間	5	1	0		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	1	現状維持	13	内容変更	1	事業縮小	0	廃止	0
<p>・西日本の大豪雨はまだ記憶に新しいところではありますが、また災害にみまわれた際はやはり近くの集会所などが避難所になると思います。各自治会ごとにある集会所は防災基地として活用できればいいのではという声もありましたのでその際インフラの一つとしてネット環境の拡充をお願いします。集会所にネット環境が整備されているところも多くないと思いますので、ニーズに合わせて整備をしていただければと思います。</p> <p>・防犯カメラの設置は団体の役員変更などで周知が不十分なこともあるので、適時お知らせして設置の検討を促してほしい。設置後の費用についても費用の一部を負担するなど、持続しやすい取組みとしてはどうか。</p> <p>・道が狭い箇所の雑草、雑木の伐採を大々的かつ本格的に実施する。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・自主防災組織の補助制度を活用していただき、集会所などにwi-fi設備等のネット環境を拡充していただくことを提案します。</p> <p>・役員の変更も鑑み、毎年代表者会議において事業の説明及び周知を行っている。また、費用については補助金として交付しており、補助対象経費の5分の4、限度額はカメラ1台につき20万円。</p> <p>・道路の木の伐採につきましては、補助金制度を活用して、自治組織で作業していただくことが最も多いケースです。具体的な案件をご相談いただきましたら、実施方法等をご案内いたします。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー17
------	-------	-------	------

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	協働推進課
具体的な施策	② 町の魅力づくり		
推進施策	ア 町の魅力づくりの推進 ■自然環境の保護・保全		
事業概要	ブッポウソウやニホンメダカなど希少野生動植物の保護活動を通して関係人口の拡大を図るとともに、本町の豊かな自然環境を町内外に情報発信する。		
事業実績・結果	<ul style="list-style-type: none"> ・町では平成24年に「吉備中央町に生息する希少野生動植物を保護する条例」を制定し、ブッポウソウとニホンメダカを指定。啓発パンフレットや観察マップの発行を行うほか、町内4ヵ所でブッポウソウの子育ての様子をライブ映像として配信している。 ・ブッポウソウの保護活動については、毎年ブッポウソウ吉備中央町会・日本野鳥の会岡山県支部等と協力しており、各団体が町から提供する資材を活用し、巣箱の設置や掃除を行っている。 ・ブッポウソウ吉備中央町会では「ブッポウソウ保護事業補助金」を活用し保護活動を行っており「横山様」を初めとした観察小屋を管理するほか、近年は町内の小学生を対象としたブッポウソウ絵画コンテストや、全国を対象としたフォトコンテストを実施し、啓発を行っている。 ・メダカについては、町内の団体「メダカをふやそう会」が保護・啓発活動を行ってきたが、団体の高齢化のため、近年はあまり活動ができていない。 		
課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ・巣箱の設置等の保護活動により、ブッポウソウの飛来数は年々増えているが、毎年すべての巣箱の清掃を行う必要があり、負担が大きい。保護団体の高齢化もあり、今後も巣箱を増やし続けることは難しいと思われる。持続可能性を考慮した保護活動を念頭に、各団体と協議しながら活動を行っていく必要がある。 ・メダカの保護団体の高齢化が進行しており、今後の対応を要検討。 		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
設定なし	—	—	—	—	—	—	—	—

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	1	現状維持	13	内容変更	0	事業縮小	1	廃止	0
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き町民参加を促し努力する。 ・ニホンメダカについては事業縮小すべき。PRしても人が来ないアイテムである。 ・ブッポウソウやニホンメダカは町の魅力であるが、観光ツアーにはできないので自然環境保護・保全の取組みとして資料館やライブカメラなど、町外からの来訪者が多い吉備プラザなどに設置してはどうか。 											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に向けて啓発パンフレットの改定を予定している。町内外に対し、里山の自然全体に興味を持っていただけるようPRを継続したい。 ・PRや誘客はあくまで副次的なものであり、保護活動は継続すべきと考えるが、町内の保護団体が高齢化のため年度内に解散予定となっており、今後の方針を検討中。ブッポウソウを含め、里山の自然環境保全を推進することで、メダカの保護にもつなげたい。 ・資料館という規模になると、場所の確保や人員の配置等が課題となる。現状、両道の駅にライブカメラや剥製を展示しており、きびプラザにも展開できればよいが、モニターやネット環境の整備が必要となるため、費用等を含めて検討したい。 											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー18
------	-------	-------	------

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	教育委員会
具体的な施策	② 町の魅力づくり		
推進施策	ア 町の魅力づくりの推進 ■図書館の充実 ■スポーツの推進		
事業概要	<p>【図書館の充実】 岡山連携中枢都市圏との連携により、子育てや育児などに関する図書を充実することで、図書館の魅力を高め、利用者の増加を図る。</p> <p>【スポーツの推進】 総合スポーツ公園の施設整備を行い、子どもから高齢者まで体力の向上を図るとともに、岡山連携中枢都市圏との連携により、サッカー、バレーボール等の大会や合宿を受け入れることで、関係人口の増加を図る。</p>		
事業実績・結果	<p>○図書館の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山連携中枢都市圏取組事業（7市5町） 吉備中央町図書館への登録者 42人（令和4年度新規登録者は9人） 貸出人数 延60人 貸出冊数 延327冊 町独自の図書館登録者数 3,596人（個人登録者のみ） 貸出人数 12,000人 貸出冊数 延40,560冊 出前図書 町民に図書館の本や活動を知らせ、図書館に親しみを持ってもらうことを目的に実施。 各小学校・学童等 年間14回 地域コミュニティ（新山山の学校・円城ももカフェ、吉備高原北部住区コミュニティ） 年間63回（移動図書館を今後検討していくため、試験的に実施） イベント 出版記念講演 50名参加 その他 移動図書館車「こっぷり号」の導入 <p>○スポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山連携中枢都市圏取組事業（8市5町）、単独事業、スポーツ協会事業（ソフトボール及びバレーボール大会、スポーツフェスティバル、マラソン大会）、ニュースポーツ体験（ちびっ子チャレンジ教室）、体カテスト 県内トップバスケットチーム「トライフープ」の応援（前日に新型コロナウイルス感染症拡大のため中止） 		
課題・問題点等	<p>【図書館】 子どもの読書離れが進み、リピーターが主で、新規登録をする子供も2回目の利用が少ない。タブレットに慣れ親しむ子供向けに、電子書籍の導入も考えたいが、費用が高く難しい。</p> <p>【生涯スポーツ】 新型コロナウイルス感染症の影響で、団体スポーツの人数が減り、団体競技を含むスポーツイベントの集客が難しい。また地区の運動会の存続も厳しく、ニュースポーツの周知を図り、生涯続けられるスポーツの普及に取り組むことを検討したい。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値								
指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
図書貸出者数 13,000人/年(個人のみ)	12,009	13,000	年間	11,676	11,515	12,000		
スポーツイベントの参加者数 1,000人/年	750	1,000	年間	0	0	518		

○まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の 方向性	事業 拡大	0	現状 維持	13	内容 変更	2	事業 縮小	0	廃止	0
<p>・高梁図書館を参考に空きスペースを確保し、カフェ空間を創る。図書館2館体制を1館にし、他を分館にして業務を整理する。図書館長には業務に精通した人を充て、正規職員として長期総合的視点から充実に努める。移動図書館を契機に本を身近に接する機会を作り、図書館への来館者を増やす。</p> <p>・吉備高原の高原らしい爽やかな気候と適度なアップダウンはウォーキング、ランニング、サイクリングに最適なもので特にエリア散策のイベントを多く実施していただき、多くの方に良さを味わっていただきたい。</p> <p>・以前から吉備高原都市内にも図書館設置の要望がある一方で、子供に限らず大人の読書離れが進んでおり利用者数は伸び悩んでいる。図書館にもとめられることは変わってきており、町民のニーズをよく把握して町の魅力に変えてほしい。</p>											
意見等を踏まえた今後の対応・対策											
<p>・御提案の内容に沿うには、既存の施設改修では敷地面積等不足となるため、新たな建設用地等が必要となり、合わせて建設費用の面からも今後の研究課題であると考えます。現在、専門職である図書館司書の正規職員を募集しています。移動図書館等選択肢を増やすことで図書館の来館者の増加につなげたいと考えています。</p> <p>・町スポーツ協会とも情報共有を図り、今後も各種イベントの充実に努めていきたいと考えています。</p> <p>・御意見を図書館職員とも情報を共有し、移動図書館車の活用や図書館のサービス向上など今後の活動に活かしていきたいと考えています。</p>											

第2期「吉備中央町まち・ひと・しごと創生総合戦略」取組に対する事業の施策・効果検証結果資料

実施年度	令和4年度	事業No.	ウー19
------	-------	-------	------

基本目標	4 町の魅力で新しい人の流れをつくる	担当課	協働推進課
具体的な施策	② 町の魅力づくり		
推進施策	ア 町の魅力づくりの推進 ■町の魅力づくりの調査、研究 ■多文化交流への取り組み		
事業概要	<p>【町の魅力づくりの調査、研究】 地域おこし協力隊や県内の大学生、高校生、転入者などの新鮮な外部目線により、町の魅力を再発見するとともに、新たなまちづくりへの調査、研究に取り組む。</p> <p>【多文化交流への取り組み】 本町に在住する外国人や観光客などとの多様な国の食文化、歴史、音楽、衣装など異文化交流ができる機会を創出し、さまざまな世界の人とつながることで、本町との関係人口の創出を図るとともに、町民の世界観を広げる。</p>		
事業実績・結果	<p>○町の魅力づくりの調査、研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流カフェの開催（年2回） ・岡崎嘉平太国際奨学財団第32期生岡山研修旅行参加 <p>○多文化交流への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目：国際交流カフェ「フラワーアレンジメント」フラワーアレンジメントで交流を深めた。 ・第2回目：国際交流カフェ「たき火屋外コンサート」たき火を囲みながら焼き芋、おにぎり、みそ汁を食べたり、軽音楽を聴きながら交流を深めた。 ・第3回目：中止 ・岡崎嘉平太国際奨学財団第32期生と岡崎嘉平太のゆかりの地をまわり、生き立ちを学んだ。 		
課題・問題点等	<p>【町の魅力づくりの調査、研究】 国際交流カフェを引き続き開催する。</p> <p>【多文化交流への取り組み】 定期的にカフェを開催することで、より一層交流を深めてもらい、また、在町外国人ネットワークの輪を広げていく。</p>		

○重要業績評価指標（KPI）の内容と令和6年度目標値・各年度実績値

指標	基準値 (R1)	目標値 (R6)	考え方	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績
多文化交流会の参加者数 100人/年	50	100	年間	28	75	41		

〇まち・ひと・しごと創生有識者会議における効果検証結果

委員からの主な意見等	今後の方向性	事業拡大	1	現状維持	14	内容変更	0	事業縮小	0	廃止	0
<p>・地域おこし協力隊が参加できるイベントを増やし、協力隊への助成金等を増額または新たに制度を設ける。</p>											
<p>意見等を踏まえた今後の対応・対策</p>											
<p>・地域おこし協力隊は、それぞれの担当部署で必要な業務に対して募集しており、現状では、協働推進課と教育委員会で任用している。協働推進課では、観光振興を目的とした協力隊を任用しており、町の観光協会にて活動している。また、協力隊の予算は、国の地方交付税措置により、必要な活動費は確保している。就業時間外には、任期満了後の定住・起業に向けた活動を行う必要があるため、現状では、助成金や新たな制度の創設は考えておりません。</p>											